

大学生・高校生・地域住民らが  
「美濃加茂市特産の干柿の新たな展開」について  
語り合います！

本学では、県内自治体など地域と協力して進める「地（知）の拠点整備事業」の一つとして、未来についての対話の場となる「フューチャーセンター※」を開催しています。

今回は、本学学生、加茂農林高校生、美濃加茂市職員や地域住民のみなさんらが一緒になり、美濃加茂市が誇る特産の干柿「堂上蜂屋柿」について学ぶとともに、やむなく規格外となってしまった干柿の活用方法についてアイデアを出し合います。

つきましては取材方よろしくお願ひいたします。

記

1. 行事名 第11回 ぎふフューチャーセンター
2. 日時 平成28年2月16日（火） 16:30～18:30
3. 場所 美濃加茂市生涯学習センター  
(美濃加茂市太田町 3425-1 (美濃加茂市役所東隣) tel: 0574-25-4141)
4. テーマ 「美濃加茂市特産の干柿の新たな展開を考える」  
サブテーマ (1) 美濃加茂の干柿の現状を知る (干柿を見る、食べる)  
(2) 美濃加茂の干柿を取り巻く課題は何か  
(3) 干柿活用の新たなアイデアを考える
5. 参加者 30人 (予定)  
内訳: 岐阜大学学生10人、同教員1人、加茂農林高校生10人、  
JAめぐみの職員2人、自治体職員4人、地域住民3人
6. 方法 グループによる話し合い
7. 進行 伊藤栄一 岐阜大学地域協学センター地域コーディネーター
8. 主催 国立大学法人岐阜大学、美濃加茂市

※フューチャーセンター

複雑な課題について、多様な人々が集まり、未来志向で創造的に議論する「対話の場」をいいます。欧州の公的機関などで発展し、日本では企業や大学等で設置が広がりつつあります。

<参考>

岐阜大学の「地(知)の拠点整備事業(大学COC センター オブ コミュニティ (Center Of Community) 事業)」

岐阜大学が県内自治体等と連携し、「地域にとけこむ大学」を目指して行う教育・研究事業。

- 事業名称 ぎふ清流の国、地×知の拠点創成：地域にとけこむ大学
- 目 標 地域の諸問題に取り組み、地域社会において存在感のある大学として、地域社会の活性化に貢献する
- 3つの柱 ①教 育：地域にとけこみ活躍する人材の育成  
(次世代地域リーダー育成プログラムの展開)
- ②社会貢献：自治体や地域住民、大学などがともに地域課題について対話する場  
(フューチャーセンター) の設置
- ③研 究：地域を志向する研究の推進



【平成27年度 ぎふフューチャーセンター開催実績】

	主催者	開催日 会場	参加 人数	テーマ
第1回	岐阜大学 高山市	5月22日 飛騨高山まちの博物館	64	人とのつながりから地域をつくる
第2回	岐阜大学 揖斐高校	6月5日 揖斐高校	58	いびの恵みの発信～効果的な発信方法を考える～
第3回	岐阜大学 郡上市	6月13日 郡上八幡旧庁舎記念館	42	郡上市八幡町市街地の空き家の利活用について
第4回	岐阜大学 高山市	8月28日 乗鞍岳畳平	36	自然保護と地域振興の共存
第5回	岐阜大学	9月29日 JAひだ本店	32	飛騨牛ブランドをどう考えるか
第6回	岐阜大学 岐阜市	11月10日 岐阜大学サテライトキャンパス	35	若者よ、投票に行こう！
第7回	岐阜大学 岐阜県	11月15日 南ひだ健康道場	35	南ひだ健康道場の活用
第8回	岐阜大学 中津川市	12月12日 中津川市阿木地区	28	特産安岐そば・シクラメン祭りをリニューアルする
第9回	岐阜大学 岐阜市	1月20日 うかいミュージアム	36	使いたくなる散策マップを作ろう
第10回	岐阜大学 郡上市	1月30日 郡上市総合文化センター	22	魅力的な「チラシ・ポスター」とはどのようなものか